

進捗状況の概要（1ページ以内）

「ライフクリエイター養成コース」（以下、「LC コース」という）は、全学横断特別教育プログラムの中の1コースとして令和3年度から運営してきた。令和5年度はLCコースのすべての必修科目を実施し、初めての修了生（ライフクリエイター）7名を輩出した。これにより、LCコースで予定されているプログラムの全体像を把握することができ、今後の運用に向けて様々なフィードバックを得ることができた。

1. 全学的な取組に向けた本部運営体制

教育・学生支援機構のもとに設置された全学横断特別教育プログラム推進本部にて推進本部会議を開催し、各コースでのプログラムの実施状況や課題に関する情報を大学執行部クラスで共有し、コース運営の改善に役立てた。令和5年度は、ウェブサイトの発信強化、修了生に対する全学横断特別教育プログラムとしてのオープンバッジの導入と全コース合同の修了証授与式の開催を実現することができた。

大学の執行部と本部機能が主体的に、社会基盤研究所が行う本部事業の計画と進捗を管理し、補助期間終了後の自走化に向けた検討を行うため、令和6年2月に戦略企画会議のもとにライフクリエイター人材養成事業戦略部会を新設した。

2. LCコース運営体制

LCコースの円滑な運営の実施のため、令和5年度も授業運営会議、カリキュラム開発会議、広報戦略ミーティング、ファンレイジング会議を開催した。

授業運営会議では、令和5年度に初めて開講した必修科目である「AI ジェネラルスキル実践ゼミ」や、すでに開講している科目の準備や実施後のフィードバックを共有した。カリキュラム開発会議では、カリキュラムの改善や成績評価手法について検討を行った。カリキュラムにおける「政策コンテスト」を「アイデアコンテスト」に改称し、「AIを用いた課題解決のアイデア」を審査するコンテストとして位置づけ、「地域課題解決」の要素も併有するビジネスコンテストとともに、それぞれのコンテストの性格と習熟目標を整理・明確化した。これにより、様々なアイデアをビジネスに応用する意識づけがなされた。また、新たな成績評価手法として貢献度相互評価を導入した。広報戦略ミーティングでは、授業やイベントを配信コンテンツとして提供する方針のもと、LCコースの広報と寄附募集への活用のため、研究活動紹介動画を作成した。併せて、令和6年度に開催するトークイベントの広報を行った。ファンレイジング会議では、ステークホルダーおよびライフクリエイター育成に関心を寄せる企業向けの広報および資金調達戦略の展開についての議論を深め、令和6年度に東京都内で4回のセミナー開催を決定し、令和5年11月にテストイベントを開催するなど、学外協力者獲得および補助終了後の自走化のための準備を進めた。

3. 授業科目の実施状況

授業科目の実施状況について、R5年度は「AI ジェネラルスキル実践ゼミ」を新たに開講した。実践ゼミを含め、授業に特別ゲストとして参加する講師の確保や、ガイダンスを実施して広報に努めた結果、従来から開講されていた科目である「ライフクリエイター入門講義」、「AI ジェネラルスキル実践ゼミ」、「AI ジェネラルスキル応用ゼミ」、「現代メディア・マーケティング入門ゼミ」において前年度より受講者数が増加し、コースの認知度が高まっていることが示された。

学修成果・教育成果の把握・可視化に関して、学外や社会における客観性を担保するため、LCコースの授業でG検定およびE資格の受験を推奨している。令和5年度は10名が合格し、合格者数は年々増加している状況にある。また、授業には外部の視点を取り入れることも重要であり、令和5年度はAIに関する事業を立ち上げている起業家にビジネスメンターを務めてもらったり、AI/DXを推進する地元企業の経営者に審査員に加わってもらったりするなど、AI業界のフロントランナーの協力を得ることができた。

4. 評価体制

コースに対する評価体制として、外部評価委員会を開催しており、令和5年度も学術界の有識者からコメントを得た。LCコースについて計画の着実な進行を評価されるとともに、修了認定だけでなく人材育成が終わらないよう継続的な関わりやコミュニティの形成が重要との指摘を受けた。

5. 広報活動

学内外への広報として、全学横断特別教育プログラムのウェブサイトおよびリーフレット、社会基盤研究所ウェブサイトの更新によって、コース情報の発信を行った。また、DP事業採択校の成果発信シンポジウム等での報告を通して、LCコースの成果を発信することができた。